

414  
A 89



臣友 幸曩ニ福岡縣下土寇蜂起ノ際諸  
 般御委任鎮撫ノ命ヲ奉シ入縣以來常  
 非ヲ分別シテ漸次着手兇賊處刑窮民  
 救助ニ至ルマテ夫々所分候段ハ既ニ  
 具狀ス爾來民心ノ動靜視察トシテ福  
 岡管内郡々ヲ始メ近傍小倉三潞白川  
 佐賀長岑ノ縣々巡回治下ノ景况諮問  
 又ハ目撃仕候處抑九州ノ地ハ人民頗  
 ル頑固ニシテ就中小民ニ至リテハ舊

大正十一年四月  
隈侯爵邸寄贈





習ニ固著シテ維新ノ何物タルヲ不知  
一令下ル毎ニ其理解ヲモ不問新政ヲ  
厭フヨリ先ニ疑團ヲ生シ却テ浮説妄  
談ヲ信シ終ニハ暴行罪ニ陥ルニ至ル  
大分福岡ノ覆轍豈遺憾ナラスヤ是上  
旨ノ下達セサルト下情ノ上達セサル  
トニテ

王化ノ未タ洽カラサルカ地方ノ其職  
ヲ盡サ、ルカ置縣以來ニ周年ノ今日  
ニ至リ如此ノ景况過憂ニ不堪退テ再

三再四審案熟慮仕候處土ニ都鄙アリ  
人ニ賢愚アリ一ヲ以テ論ス可ラス上  
下信義ヲ不失治政ノ本体ヲ瞭知セシ  
ノ忌憚間隔ナク氣脉相通シ一貫照明  
ナラシメハ不勞シテ開明ノ域ニ進ム  
ヘシ断髮戎服ヲ以テ開化ト唱へ横文  
書筭ヲ以テ文明ト稱シ風土ヲ不辨シ  
テ桑茶ヲ植シ利害ヲ不圖シテ草野ヲ  
墾スルノ類コレ虚飾ニシテ真ノ開明  
ト云可ンヤ人々智識ヲ磨キ能クカラ



盡シ財産優ニシテ衣食足リ聞見自ラ  
開ケ禮義自ラ備リ野ニ不毛ノ地ナク  
邑ニ不学ノ人ナク家ヲ興シ國ヲ富シ  
各自由ノ權利アルヲ知テ以テ開明ノ  
民タルヘク是ヲ以テ之ヲ視レハ空理  
虚設一日ノ速成ヲ欲セス能ク教ヘ能  
ク導キ徐々ト開明ノ真治ニ至ラシ  
ヲ望ム臣友幸九州ノ地ヲ巡歴スル再  
三幸ニ人民ノ情態土地ノ難易等概知  
ス因テ鄙見ノ摘要ヲ獻ス左ノ如シ

一貫属ノ情状ニ於ル或ハ洋学ヲ志ス  
アリ漢籍ヲ嗜ムアリ又ハ半髮双刀  
時ニ隨テ容貌ヲ變スル等一躰ナラ  
スト雖モ概シテ今日ノ上旨ヲ了知  
シ剥祿ノ遅速ヲ顧念シテ授産ノ方  
法ヲ計ルノ情状アリ陽ニ政體ヲ誹  
議シ議論ヲ主張スルノ弊アリト雖  
モ言行相異ニシテ曾テ苦慮スヘキ  
景況ニアラス然レトモ窮スレハ及  
スルノ格言アリ



朝廷速ニ祿制ノ議ヲ決シ天下無數  
ノ貫属ヲシテ方向ヲ得サラシメン  
トヲ望ム

一 允ソ物ヲ興難ト雖モ難ニアラス人  
ヲ興スコレ難シ抑牧民ノ職タルマ  
土地ノ難易民情ノ厚薄ヲ通知シ既  
往ヲ推究シテ将来ヲ斟酌シ時機ヲ  
不失實際適當ヲ得サレハ制御ナシ  
カタシ地方ノ長官タル屢交換アレ  
ハ属吏隨テ變轉スコレ不得止ノ勢

ナリ前官是トストモ後官之ヲ非ト  
スルアリ事々物々如此ナル時ハ常  
事勢ノ澁滞ノミナラス民心ニ関涉  
進歩ノ妨害到底國家損害コレヨリ  
大ナルハナシ犯法違律アレハ論ヲ  
致ス願クハ自後容易ニ其官ヲ不轉  
能ク其力ヲ盡サシメ以テ國家裨益  
ノ奏功有ニトヲ欲ス

一 允ソ區戸長ノ職タルヤ公文布令ヲ  
及復熟味シ是ヲ一身ニ率先シ區内



ヲ教誘善導シ細民ヲシテ上旨ノ感  
戴スヘキヲ了知セシム。是區戸長ノ  
專任ニシテ其責モ又重シ若區戸長  
ノ其職ヲ失スルアレハ國家ノ損害  
何レノ時カ之ヲ補シ目今地方廳中  
四課ヲ置事務ヲ部分シテ擔當スト  
雖モ租税関墾堤防營繕ヨリ社寺貫  
屬戸籍學校徵兵地券等ニ至ルマテ  
凡百ノ縣務一トシテ區戸長ノ関セ  
サルナク然レトモ官外ニ在ルヨリ

互ニ自ラ間隔ヲ狹ニ到底上承下達  
壅塞ノ弊ナシトセス是臣友幸力深  
ク過慮スル所ナリ仰願クハ自今負  
外ノ官ヲ設ケ區長ヲ八九等ニ置キ  
一縣三名乃至四名ヲ以テ大區ヲ部  
分シ職制ヲ設立シテ部内凡百ノ丁  
ヲ司ラシメハ相親睦シテ上旨下達  
下情上達壅塞スルノ弊ナク氣脉和  
通シ上下並ヒ馳ヒテ以テ開明ノ真  
治ニ至ン今贅費ニ似タリト雖モ將



来ノ補益幾許ヲ不知差向九州各縣  
 ノ如キハ必ス此許有ニテヲ冀フ  
 一各縣ノ體裁タルヲ置縣以來ニ周年  
 ノ今日ニ至リ未タ其宜キヲ得サル  
 アリ其故何ソヤ長官ノ交換ニ隨テ  
 更革アリ或ハ公布規則ヲ了解セサ  
 ルアリ徒ニ空理虚飾ノ閑明ヲ勸ム  
 ルアリ諸般如此コレヲ教督誘導シ  
 親疎勤惰ヲ監督スル六十縣ヲ三分  
 乃至四分シ權限ヲ定メコレカ一分

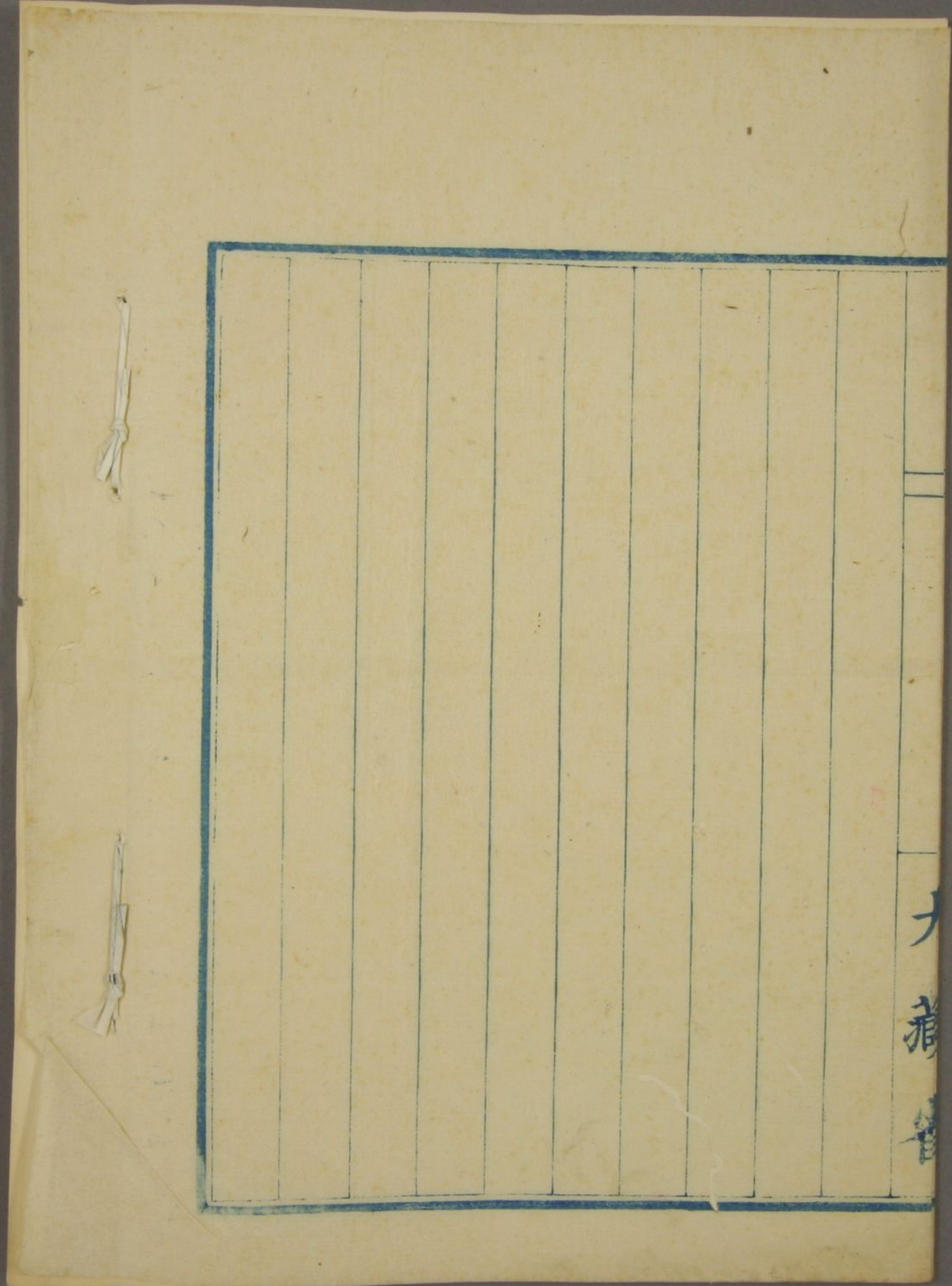
ヲ亟一負ノ擔當トシ屢部内ヲ巡回  
 シテ千緒萬般ノ事務ヲ諮問シ治下  
 ノ景況ヲ視察セシムルニ如クハナ  
 シ如此ナルトキハ縣務ノ擧ラサル  
 ナク縣情ノ省達セサルナク大ニ施  
 政補助ノ一端ヲ得ルナラン  
 古鄙見ノ如キハ迂遠ニ属スルモノア  
 リト雖モ九國ノ邊陲ニ於ル必ス一時  
 ノ盛大ヲ不求人々自ラ風ヲ望ミ俗ヲ  
 慕フノ情ヲ發シ而シテ漸次ニ歩ヲ進



ムル時ハ根軸愈固フシテ枝葉愈盛ナ  
ルヘシ美事良法ト雖モ時ト地ニ適セ  
スンハ却テ弊害ヲ遺スノミ豈遺憾ナ  
ラスヤ臣友幸不肖ヲ不顧聊鄙見ヲ述  
テ以テ獻ス仰願クハ文体ノ可否ヲ論  
セス鄙議ヲ棄テ玉ハスンハ山陽南海  
西海ノ縣々ヲシテ友幸カ擔當ノ部分  
ト定メラレ巡歴視察ノ命アラントテ  
仰望ス幸ニ此許アラハ微カヲ盡シテ  
以テ

國家ニ奉答セント欲ス臣友幸謹テ議





大雅  
卷